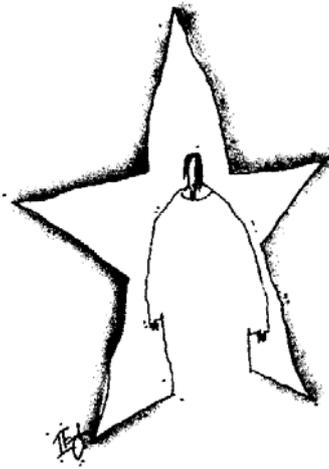


## 博士たちを導いた星

### 第2編6章

墮落した人間はただキリストによってのみ救いを受けることができます



罪人は誰も神の独り子を通してだけ父に近づくことができます。その仲保者の働きがないすべての知識は救いを受ける力にはなりません(ローマ 1:16、コリ前 1:24)。「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです」(ヨハネ 17:3)。イエスは私たちが救いに入ることのできるただ一つの門なのです(ヨハネ 10:9)。

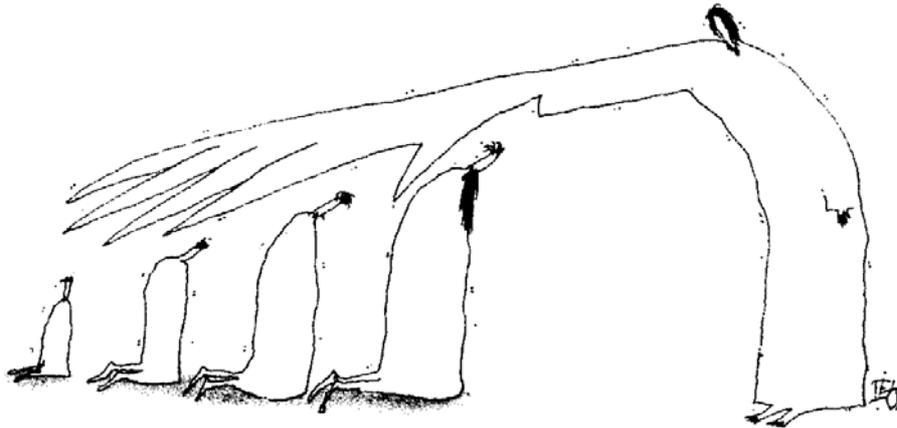
はるか昔、イエスがベツレヘムの地で誕生される2年ほど前に東の国の占星術の博士たちは一つの珍しい星を見つけました。この星は長い間、東の国の博士たちが待ちに待っていた星でした。数え切れないイスラエルの人々が口癖のように語っていたその星です。王の星、メシアの星です。博士たちはその星に従って2年にも渡って遠い旅を続けました。彼らはその星がなければ一歩も前進することはできませんでした。しかし、その星は先立つように輝き続けて博士たちを幼子イエスへと正確に導いたのです。

イエス・キリストは神を探し求める者たちにはその星のような役割を果たす方です。イエスがいなければ誰も神を見つけ出すことはできません。旧約時代のすべての聖徒が待望していた星こそがイエスなのです。イエスだけが神を見つけ出そうとする人々を助けることができます。あなたは今、その星をしっかりと見つけ出していますか。

第1節 唯一の仲保者だけが墮落した人間を助けることができます。

本来、大宇宙は聖なる神を学ぶことができる神学校であり、神の知恵と数え切れない奇跡が公演されている雄大な劇場のようなものと言うことができます。それを通して私たちは敬虔を学び、永遠の命と完全なる祝福に向かって歩むようにされていました。しかし、墮落して以後、人間は呪いと悲慘に完全に圧倒されてしまったのです。

宇宙を見ても父なる神を見つけられず、良心の叫びに耳を傾けることもなく、かえって神の恵みを悪用し、神からその栄光を奪い取ろうとするほどに邪悪なものになってしまいました。神はそのように罪に汚染された人間を自分の作品として認めることはできません。そこでついに独り



子を救い主として遣わしてくださったのです。

ですから罪人は誰も神の独り子を通じてだけ父に近づくことができるのです。その仲保者の働きのなしのすべての知識は救いを受ける力をもっていません(ローマ 1:16、コリ前 1:24)。「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです」(ヨハネ 17:3)。イエスは私たちが救いに入ることのできるただ一つの門なのです(ヨハネ 10:9)。

イエスなしの礼拝も偽りです(ヨハネ 4:22)。私たちが罪の下で完全に奪われてしまった命はただイエス・キリストにだけあり、イエスご自身は命そのものなのです(エフェソ 2:12、13;ヨハネ 1:4、10、11:25、14:6)。メシアの星が墮落した人間を助けることができるのです。

第2節 昔の契約も唯一の仲保者なしの信仰は偽りだと宣言しています。

神は昔の契約の下にあった人々にも仲保者なしでは恵みを与えることがなく、恵みについての希望を与えることもありませんでした。神がアブラハムに与えられた古い契約はアブラハムの子孫によってすべての民族が祝福されるということでしたが、使徒パウロはその子孫こそがイエス・キリストであるとはっきりと語っています(創世 17:4、12:2,3;ガラテヤ 3:14)。またイシュマエルに代わってイサクが、エサウに代わってヤコブが選ばれたのはみな仲保者の恵みによるものでした(ローマ 9:11)。

サムエルの母ハンナも神が立てられた仲保者による祝福を預言して歌っています(サムエル上 2:10、35)。ダビデも敬虔な人々に命じて「子に口づけせよ」と語りました(詩 2:12)。イエスの次の御言葉はダビデのその命令と一致しています。「すべての人が、父を敬うように、子をも敬うようになるためである。子を敬わない者は、子をお遣わしになった父をも敬わない」(ヨハネ 5:23)。仲保者を信じなければ、神を信じていませんし、仲保者に従わない者は、神に従っていないと語っているのです。だからこそ仲保者なしでは信仰もなく、恵みもないのです。

歴史的に見るときもイスラエルは内乱と外敵の侵入などによって混乱に陥りました。しかし、神は常にダビデとその子孫たちに与えられた約束を忘れることはありませんでした。「ただし、王国全部を裂いて取り上げることはしない。わが僕ダビデのゆえに、わたしが選んだ都エルサレムのゆえに、あなたの息子に一つの部族を与える」(列王上 11:13、32)。神はこの約束を繰り返し

てイスラエルに思い起こさせてくださいました。そして、「彼の神、主は、ただダビデのゆえにエルサレムにともし火をともし、跡を継ぐ息子を立てて、エルサレムを存続させられた」(列王上 15:4)とも言われています。

その後イスラエルはほとんど壊滅状態に陥ってしまいましたが、もう一度神は「しかし、主はその僕ダビデのゆえに、ユダを滅ぼそうとはされなかった。主は、ダビデとその子孫に絶えずともし火を与えると約束されたからである」(列王下 8:19)と語られています。ダビデとイスラエルのすべての敬虔な者たちは神が約束されたともし火、つまりダビデの子孫を待ったのです。その子孫こそイエス・キリスト(詩 2:6、7、ローマ 1:4;使徒 13:33;ヘブライ 1:5)でないとしたらいったい誰になると言うのでしょうか?

このように神は仲保者なしに人類と和解されることはされず、古い契約の下にあった聖なる人々たちが常にイエス・キリストを見上げるようにされたのです(ローマ 5:10、コリント後 5:18;エフェソ 2:13、14;ヨハネ第一 2:2)。昔の契約の聖徒たちは東の国の博士たちのようにメシアの星を待ち望み、その星が自分たちを完全な救いに導いてくださることを信じていたのです。

第3節 唯一なる仲保者に対する約束は昔の契約のすべての信仰と希望の唯一の根拠です。

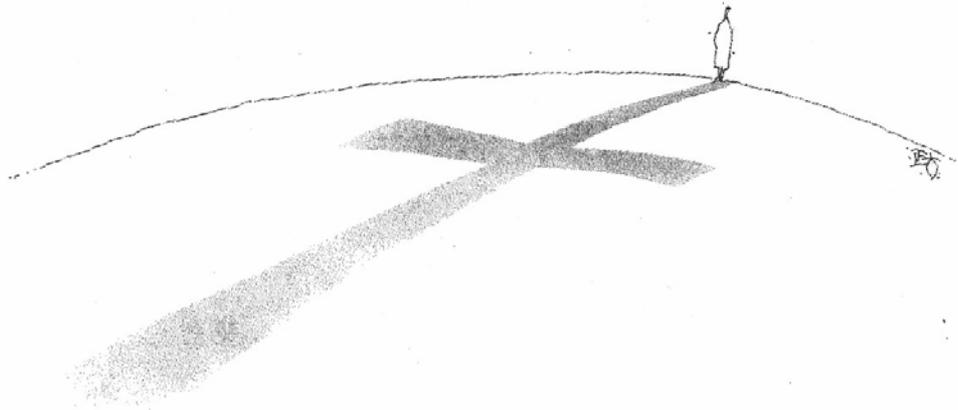
旧約に登場するどんな慰めの約束であっても教会の救いについて語られるときは常にキリスト(油注がれた者)についての信頼と希望が示されています(ハバクク 3:13)。そして昔の契約のすべての預言者たちは教会の再建を語るたびに常に「ダビデの国が永遠であれ」という神の約束を思い出されるようにしたのです(参考、列王下 8:19)。

イザヤも邪悪な王アハズがエルサレムを守ってくださるといふ神の約束を信じようとしなかったときに、突然メシアについてのあの有名な約束を語りました。「見よ、おとめが身ごもって、男の子を産み/その名をインマヌエルと呼ぶ」(イザヤ 7:14)。神の救いの約束はアハズの不信仰とは関係なく成就されることをメシアに対する希望を根拠にして伝えているのです。

旧約の預言者たちが民に神の慈しみを知らせようとするとき、常に力強く伝えたことは永遠なる救いをもたらすダビデの王国に対する約束でした。「耳を傾けて聞き、わたしのもとに来るがよい。聞き従って、魂に命を得よ。わたしはあなたたちとこしえの契約を結ぶ。ダビデに約束した真実の慈しみのゆえに。見よ/かつてわたしは彼を立てて諸国民への証人とし/諸国民の指導者、統治者とした」(イザヤ 55:3,4)。

エレミヤ書でも神は希望を失い落胆する者たちを激励するためにこのように語られています。「見よ、このような日が来る、と主は言われる。わたしはダビデのために正しい若枝を起こす。王は治め、栄え/この国に正義と恵みの業を行う。彼の代にユダは救われ/イスラエルは安らかに住む。彼の名は、「主は我らの救い」と呼ばれる」(エレミヤ 23:5、6)。エゼキエル書でも「わたしは彼らのために一人の牧者を起こし、彼らを牧させる。...主であるわたしが彼らの神となり、わが僕ダビデが彼らの真ん中で君主となる。...わたしは彼らと平和の契約を結ぶ」(エゼキエル 34:23~25)と語られています。

またほかのところでも、「わたしの僕ダビデは彼らの王となり、一人の牧者が彼らすべての牧者となる。...わたしは彼らと平和の契約を結ぶ。」(エゼキエル 37:24~26)と語られています。他の預言者たちもまったく同じ約束を繰り返して伝えています(ホセア 1:11、3:5;ミカ 2:13;アモス



9:11;ゼカリヤ 9:9)。ダビデから出る一つの若枝、一人の牧者などの言葉はみな誰を指しているのでしょうか？それがダビデの子孫として来られたイエス・キリストでなければいったい誰になると言うのでしょうか？

「わたし、イエスは使いを遣わし、諸教会のために以上のことをあなたがたに証した。わたしは、ダビデのひこばえ、その一族、輝く明けの明星である」(黙示 22:16、参照、マタイ 1:1、21:9;黙示 3:7、5:5)。このように昔の契約のすべての信仰と希望はダビデの子孫として来られた仲保者イエス・キリストにその根拠を置いているのです。

第4節 神を信じることはキリストを信じることです。

神がイスラエルの民にこのような昔の契約の預言者たちを与えられた目的は彼らが預言者の語る言葉を聞いて悟ることで直接救い主イエス・キリストに近づくためでした。たとえ旧約の民たちが深刻な腐敗に陥っていたとしても、不変の原則に対する記憶までは失われることはありませんでした。不変の原則とは二つのことです。第一に神はダビデに約束されたとおりただキリストの手を通してだけ教会を救われるということです。そして第二は自分の民を選ばれるために神がその御心に従って与えてくださったダビデの契約は決して廃棄されないという事実です。

以上の二つの原則はイエスが十字架にかかれようとした、その直前にエルサレムに入城されたとき幼子たちが歌った歌の中にそのまま語られています。「ダビデの子にホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように。いと高きところにホサナ」(マタイ 21:9)。教会を救うことができる唯一なる仲保者がダビデの子孫として来られると歌っているのです。

ですからイエスは弟子たちに神をはっきりとそして完全に信じるためには自分を信じなければならぬと直接命じられているのです。「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい」(ヨハネ 14:1)。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。あなたがたがわたしを知っているなら、わたしの父をも知るようになる。今から、あなたがたは父を知る。いや、既に父を見ている」(ヨハネ 14:6、7)。罪の下にある人間は誰も仲保者なしでは聖なる神を見出すこともできませんし、その方に近づいて行く事もできません。

しかし、見えない神の形（コロサイ 1:15）であるキリストを通してだけ神に近づくことができます。ですから使徒パウロは「キリストは律法の目標であります、信じる者すべてに義をもたらす...」（ローマ 10:4）とも語っています。使徒ヨハネも「御子を認めない者はだれも、御父に結ばれていません」（ヨハネ第一 2:23）と語っています。イエス・キリストなしに神を信じ、礼拝するというイスラム教徒をはじめ世の無数の宗教はまことの神に代えて偶像に仕えているのです。

#### 結びのことは

唯一なる仲保者であられるイエスは昔、東の国からやってきた博士たちを導いた星のように私たちを神に導く星です。その星に従う道がたとえ遠く険しくても、そこには大きな喜びと感謝が満ちています。いま、あなたはこの星に従う道を歩んでいますか？ そうだとすればあなたに何が必要ですか？ 揺るがない信仰、誠実な歩み、そして神へのささげものではないでしょうか。